

# 産業排水の集約処理により設備投資が軽減され工場立地が促進

処理水量は当初250万m<sup>3</sup>/年から17倍の4,300万m<sup>3</sup>/年，企業は13から122工場が立地



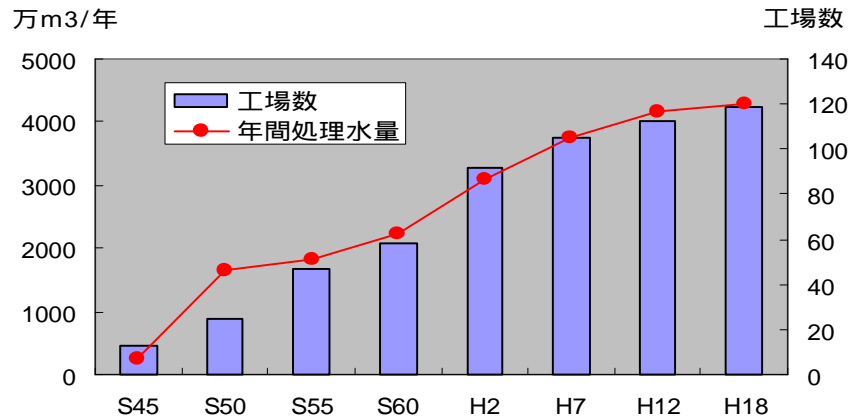
鹿島臨海特定公共下水道  
深芝処理場

鹿島臨海工業地帯は、鉄鋼、石油化学、石油精製等の重化学コンビナートとその関連企業が集約する工業地帯で、県工業出荷額の約16%を占めています。

鹿島臨海特定公共下水道は、これらの産業排水と周辺住民の生活排水を一括処理している大規模な特定公共下水道です。

昭和45年の供用開始以来、年間処理水量は17倍に増え、工場数についても当初13工場に対し122工場（110社）となっています。

企業は、独自の排水処理施設の整備が不要となり、工場の立地が促進されました。



## H18特定公共下水道年間処理水量

第1位	茨城県鹿島臨海	4,293 (万m <sup>3</sup> )
第2位	愛知県一宮市	1,604
第3位	岩手県北上市	563
第4位	山形県米沢市	387
第5位	福井県臨海	379
第6位	北海道石狩湾新港	289

## 鹿島臨海特定公共下水道事業概要

- ・ 現有処理能力：165,000m<sup>3</sup>/日
- ・ 幹線管渠延長：35.7km
- ・ 中継ポンプ場：3箇所
- ・ 供用開始年度：昭和45年9月
- ・ 対象工場数：122工場(110社)

特定公共下水道とは、特定の工場や事業場から排出される汚水量が計画汚水量の概ね2/3以上占める下水道をいいます。